

病理診断部 臨床研修到達目標（選択）

1. 特徴

専門性の高い医師を非常勤で招聘しており、病理診断の質を担保しています。

臨床医と病理医との間で時間をかけた臨床病理学的討論をしています。（臨床各科とのCPC）

内科、外科などの臨床科と同様に顔の見える病理医を目指し、近隣病院の先生方との交流に努めます。

2. ねらい

病院における病理検査室の機能と役割を良く理解する。

病院における病理診断業務の基礎的知識と技術を習得する。

3. 一般目標

1) 生検材料や手術材料の診断

- (1) 新鮮標本の適切な処置ができる。
- (2) 切り出しと標本作成指示ができる。
- (3) 顕微鏡などを用いた病変の観察ができる。
- (4) 肉眼・顕微鏡などによる所見の記載ができる。
- (5) 病理診断報告書の作成ができる。

2) 剖検診断

- (1) 剖検の手技を習得する。
- (2) 切り出しと標本作成の指示ができる。
- (3) 顕微鏡などを用いた病変の観察ができる。
- (4) 肉眼と顕微鏡などによる所見の記載ができる。
- (5) 病理診断報告書の作成ができる。

3) 細胞診

- (1) 細胞所見の記載ができる。
- (2) 細胞診報告書の作成ができる。

※個人の希望と実力に応じて相談の上、個別に研修プログラムを作ります。

4. 研修方略

日常の病理診断業務に指導医とともに携わることで、病理医が習得すべき知識や技術の全体像を把握することができる。

未固定臓器の処理、切り出し、病理解剖などの手技に関しては、指導医の処理方法を参考にしつつ自ら実践して習得する。

切除臓器の肉眼所見ならびに顕微鏡的所見を文字として記載することが、病理診断能力の向上に大きく役立つ。記載した所見およびその所見から導かれる病理診断の適否について指導医のチェックを受け、あるいは指導医とディスカッションを適宜行うことにより、必要かつ十分な所見を短時間に把握し、的確な病理診断に導く能力を養う。

各科との勉強会に参加し、各論的知識を深めるとともに臨床と病理の相関について理解を深める。

5. 週間スケジュール

科	月	火	水	木	金	土
病理診断部	病理診断 業務一般 各科カンファレンス (毎週)	病理診断 業務一般 CPC (夕方月1回)	病理診断 業務一般	病理診断 業務一般 カンサボード (夕方月1回)	病理診断 業務一般	病理診断 業務一般

(原則として剖検はすべて入室する)

6. 研修評価

- 1) 自己評価：PG-EPOC を用いて自己評価を行う
(症候、疾病・病態の経験についてはPG-EPOCにて確認を行う)
- 2) 指導医による評価：PG-EPOC を用いて研修医を評価する
(症候、疾病・病態の経験についてはPG-EPOCにて確認を行う)
- 3) 研修医による研修体制評価：PG-EPOC を用いて診療科全体（指導内容、研修環境）を評価する

7. 指導体制

指導責任者 中津川 宗秀